第 60 回（一社）比較統合医療学会学術大会
第 20 回日本補完代替医療学会学術集会
一般講演 19

犬の手作り食による血漿バイオマーカーの変化

Changes in plasma biomarkers by home-made diet on a dog

齋藤温子 [1)]、荒木幸子 [2)]、川角　浩 [3)]
Atsuko SAITO[1)], Yukiko ARAKI[2)], Koh KAWASUMI[3)]
1）斉藤牧場動物病院　2）ヤマザキ学園大学　3）日本獣医生命医科大学
1）Saito farm Animal Clinic　2）Yamazaki Gakuen University　3）Nippon Veterinary and Life Science University

はじめに

本学会主催の統合医療栄養学セミナーが 2015 年 11 月から開催され基礎編から実践編まで実施された。このセミナーでは栄養学の基礎から応用を講義で学び実践編では実際に調理して作り方も学んできた。さらに手作り食の効果を検証する目的で血液検査を実施した。

症例

トイプードル、去勢雄、13 歳

2 歳から時々下痢を繰り返していた。その頃から処方食（CIW）のウエットとドライフードを与えていた。フードを変えるとすぐに下痢をした。11 歳齢時に急性膵炎を発症してからしだいに慢性膵炎に移行した。処方食も食べなくなり偏食気味になった。その後、手作り食の提案と併せて血液データー採取をお願いしたところ同意を得た。

方法

手作り食の基本レシピは統合医療栄養学セミナー（基礎コース）で講義された低脂肪レシピを採用した。具体的には手羽先の骨スープ、鳥レバー or 砂肝のペースト、魚のペースト、野菜のピュレー、ご飯を混ぜたものである。血液採取は手作り食開始前、1 カ月後、3 カ月後に実施した。測定項目は CBC、TP、Alb、AST、ALT、ALP、BUN、Crea、血糖、Ca、P、T-CHLO、TG、LDH、MDH、M/L 比、MDA とした。

結果

CBC において開始前は貧血傾向であったが食事を変更してから 1 カ月後には正常になり 3 カ月はより改善されている。血液生化学所見では 1 カ月後では変化がなかったが 3 カ月後に AST、ALT の軽度上昇、ALP の軽度低下、TG の低下が認められた。また LDH は 3 カ月後に大幅に減少し、MDH は増えたので M/L 比は上昇した。一方 MDA は 1 カ月後変化がなかったが 3 カ月後減少した。

まとめと考察

CBC 検査で 1 カ月後から貧血が改善されていたのは骨スープやレバーなどで造血を促した可能性が考えられた。その他の検査所見で 1 カ月後の変化が乏しかったのは徐々に食事を変えたので完全に手作り食でなかったことも考えられた。3 カ月後の検査では ALP、TG が低下し脂質過酸化ストレスマーカーである MDA が減少したことは低脂肪で新鮮な野菜などの食材による抗酸化物質が作用した可能性が考えられた。ALT、AST が軽度上昇しているのは内臓食が影響している可能性も考えられ与え方の工夫が必要と思われた。またエネルギー代謝の有効な指標の 1 つとされている M/L 比が上昇したということは症例が元気になって代謝が亢進していることを裏づけた。